

## “心に残った家族の思い出”

私は看護師の経験を経て、移植コーディネーターとして6年間仕事をさせて頂きました。私がこの仕事に携わって強く感じたことは、臓器提供に関わるご家族の方々と提供者の方々の優しさと思いやりでした。

私にご家族にお会いして臓器移植について話をさせて頂いた時、ご家族は大変な時にも関わらず真剣に耳を傾けて下さいました。「本人が望んでいたことだから、何とか叶えてあげたい。」「本人の意思はないけれど、優しい人だったから提供したいと思う。」「他の人の命を助けることができるなら。」「せめて体の一部でも生きていて欲しい。」と臓器提供されたご家族。「愛する人の体に傷を入れたくない。」と提供をご辞退されたご家族。どちらもご家族のことを思っただけの選択でした。どちらもご家族への深い思いやりの心が伝わってきました。

私は、移植コーディネーターは提供者やそのご家族のお気持ちを尊重し、その思いを大切にお手伝いさせて頂くことが勤めだと思えます。職を離れた今も、移植コーディネーターとして出会った多くのご家族の方々は私の心の中におられます。「どうしていらっしゃるだろうか?」と思いだします。私はこの仕事を通して出会った多くのご家族から、愛する家族を失うという危機状態の中での命への優しさと思いやり、そしてご家族の愛を、また、その思いを達成するために共に頑張った医療スタッフやコーディネーターからはチーム医療の大切さなど多くのことを改めて教えて頂いたと思えます。6年間ではありましたが、移植コーディネーターという仕事をさせて頂いたことを心より感謝しています。

(岡山県臓器バンク「ありがとう」抜粋)

